

インド国王舎城仏舎利塔第五十周年記念大法要 御報告と御礼

南無妙法蓮華経

去る十月二十五日、仏恩報謝のインド国王舎城仏舎利塔第五十周年記念大法要を吉田行典上人導師のもと、日本山妙法寺の出家五十五名並びにインド国大統領ラム・ナート・コビンダ閣下、インド国ビハール州首相ニティシュ・クマール閣下をはじめとするインド国内のご来賓の方々のご臨席を仰ぎ、三徳・CGCの団参の方々、日本国内各地からの団参の方々、ブツダガヤ王舎城の仏跡巡礼の方々がご参詣なされ、盛大に厳修することができました。当日、十月二十五日のお天気は大雨の予報を覆し、御師匠様と諸天善神のご加護をいただき、曇り空のもとでしたが、お喜びの相でありました。

導師 吉田行典上人は、「西天開教とは、インドの独立であり、仏教の復興であります」と、御師匠様のお言葉を述べられ、「インドは暴力を用いず、非暴力によって独立を確立し、今日の闇を照らすべく、世界に範を示されました。今や人類絶滅を救うため、ガンデー翁や御師匠様が示された非暴力・不殺生の実践を世界に宣言し、世界の人々を導く時であります」と法話されました。

インド国大統領閣下、ビハール州首相閣下をはじめとする御祝辞は、藤井日達聖人（藤井グルジー）の行蹟を讃嘆され、御釈迦様の御霊場である王舎城仏舎利塔から世界平和を発信していくことを誓われました。

このたびの王舎城仏舎利塔第五十周年記念大法要の開会にあたり、ビハール州政府首相ニティシュ・クマール閣下の全面的なご支援とラジギール・ブツダ・ビハール・ソサエティ事務局長のマハシユウエタ・マハラテイ女史のご尽力に深く感謝いたします。

最後に、このたびの大法要にご参詣、ご供養、ご協力、ご支援を賜りました関係各位の方々に心より感謝の意を表させていただきます。誠に有難うございました。

合掌

令和元年十一月

各位様

日本山妙法寺大僧伽